

SY-3 CKD・透析とポリファーマシー

独立行政法人 地域医療機能推進機構 徳山中央病院

○越智達郎、佐藤真也

ポリファーマシーとは単に薬剤数が多いことではなく、薬剤が多いことに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下などの問題につながる状態であり、最近では重複・過量処方、有害事象のリスクが高い薬剤や不要な薬剤の処方など、あらゆる不適正な処方を含む概念として用いられることもある。

CKD患者や透析患者では併存する疾患も多く、多剤併用となりやすいことに加え、体調を崩しやすいために感冒薬や抗菌薬などを併用しなければならないケースも多く、ポリファーマシーが問題となりやすい。当シンポジウムにおいて、CKD・透析患者に繁用される薬の相互作用について紹介する。

また、平成28年度には「薬剤総合評価調整加算」が新設されるなど、国も後押ししているが、単純に薬剤を減らすのではなく、総合的に評価するためには、量や相互作用のみならず、患者の生活背景や実際の訴え、検査値や症状などの情報もみることが必要である。薬剤師のみ、一施設のみで進めるには困難なこともあり、薬の専門職である薬剤師が地域の医師や多職種と協働して取り組むことが求められる。